

病院だより

No.6
市立豊中病院ニュース
TOYONAKA MUNICIPAL HOSPITAL

基本理念

豊中市の地域中核病院として

『心温かな信頼される医療』を提供します。

基本方針

- 1) 患者さんの立場に立った心温かな病院をめざします。
- 2) 地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供します。
- 3) 医療従事者と連携を密にし、市民の健康を守るために努力します。
- 4) 高齢化社会に対応する医療を推進します。
- 5) 医療従事者の教育・研修の充実を図ります。

「第3回 市立豊中病院がん医療公開講座」を開催しました

去る11月12日、「ゆやホール」において、約250人のみなさまにご参加いただき、第3回がん医療公開講座を開催しました。当日は、当院の北田医師-器務局次長兼外科主任部長が、乳がんの基礎知識について講演を行いました。

知っておきたい! がん医療の基礎知識

乳がん予防・診断・治療の最新線から

市立豊中病院 医師局長兼 外科主任部長 北田 昌之

乳がんは、我が国では今も増加しています

乳がんは増加の途をたどっており、罹患患者数は第1位で、1999年は36,139人でした。また死亡者数は大腸がん、胃がん、肺がん、肝臓に次いで5番目で、2004年に乳がんで亡くなった女性は10,524人でした。アメリカでは女性の8人に1人が乳がんを経験し、我が国では女性の23人に1人が罹患しています。

患者数の推計では、20歳台を過ぎたあたりから急に増え始め、45～49歳のピークまでうなぎのぼりです。50歳代あたりから少し減りはじめます。他の主ながんはピークがもう少し後の60歳代以降にありますが、乳がんは早い年代にあるのが特徴です。

乳がんの診断

我が国では1987年から老人保健法に基づき、触診法による乳がん集団検診が導入されました。しかし、触診法により乳がん死亡率が低下する確証はなく、2000年からマンモグラフィ併用による検診が開始されています。米国と同様に、早期発見による死亡率の低下が期待されることです。

乳がんは、問診や視触診、各種検査を経て診断されます。マンモグラフィや超音波検査と細胞診や組織診断を組み合わせることで確定診断され、治療が施されます。

乳がんの治療

初発乳がん治療の第一選択は手術療法です。治療率を向上させるために、補助療法として術後に放射線療法や全身療法であるホルモン療法、化学療法などが施行されます。最近では、乳房温存を希望する患者を対象に早期乳がんに対する術前化学療法も行われるようになってきました。

乳がんでの治療選択の大部分に、何らかの形で外科手術が含まれています。従来は、がんは乳房腺から所属リンパ節に転移し、最終的に遠隔部位に広がると考えられていました。しかし、最近乳がんの中には早期から転移し、受診時点ですでにがん細胞が遠隔転移している場合があることがわかってきました。そのため、手術は局所病変を適切に制御することが主要な目的です。術式および切除範囲は腫瘍の大きさや進行病期により決まります。

現在、一般に実施されている乳房切除術は、胸筋温存乳房切除術または単純乳房切除で、大動脈、小動脈を温存し、乳房全摘や腋窩リンパ節摘出を行うものです。乳房温存手術は腋窩傾向にあり、単発で腫瘍の小さい(3cm未満)患者が適応ですが、腋窩リンパ節摘出、術後照射を併用することにより、根治的乳房切除術とほぼ同等の治療成績です。

化学療法とはがん細胞の分裂を妨げる薬剤を投与することをいいます。それによってがん細胞の増殖を抑え死滅させることを目的とします。乳がん治療に用いられる化学療法には多くの種類があり、通常の種類あるはそれ以上の薬剤を併用します。化学療法は分裂する細胞を損傷させるため、口、消化管系、皮膚、骨、神経など、体内で正常な細胞が頻りに分裂するところで副作用を受けやすくなります。

内分泌療法はホルモン療法と呼ばれることもあります。内分泌という言葉は、体内の腺から分泌され、体内の細胞の構造や機能に影響を及ぼす自然ホルモンを表す言葉です。乳がんの多くはホルモンによって増殖が促進され、特に女性ホルモンであるエストロゲンの影響を受けます。内分泌療法は、体内でのエストロゲン産生を阻害、あるいはがん細胞によるエストロゲンの取り込みを遮断することによって、このようなホルモン-受容体陽性乳がんの増殖を抑制あるいは抑制します。

以上、講演内容の一部を紹介しました。

市立豊中病院は厚生労働省により「地域がん拠点病院」に指定されています。地域の医療機関と連携して皆様により良いがん治療を提供することに努めています。

病院ボランティア募集

〈豊中病院で活動していただけるボランティアさんを募集します。〉

ボランティア活動内容

◆外来案内ボランティア

- 活動内容：初診、再診手続きの手伝い
・車椅子の介助、歩行の介助
・施設案内等
- 活動時間 平日 9:00～12:00

◆古布裁断ボランティア

- 活動内容：木綿の古布を裁断し、病棟で患者の清拭等に使用する使い捨て布を作る
・小児用パジャマの縫製
・各種カバーの作製
- 活動時間 月2回 月曜日 13:00～15:00

問い合わせ
病院管理課 総務係
内線 3474

ご協力いただける方は、ぜひお問合せください。



適温配膳車でもっと美味しいお食事を!

従来当院では、食器は時間が立っても冷めにくい様に工夫された断熱材が入った「保温食器」を使用し、調理を終えたご飯や料理は熱いうちに盛り付け保温車に、また冷たいサラダや果物は保温車にそれぞれ保管し、配膳出発直前に食事をセットし自動搬送機で各病棟に送っていました。それでもご飯やおかずがある程度冷めてしまうことや、保温食器の種類や色が限られているため必ずしも患者様に満足していただける状態ではありませんでした。

そこで10月31日より念願であった「適温配膳車」を約2週間の大掛かりな厨房工事の後、導入することができました。この配膳車は中が「保温室」と「保冷室」のふたつに分かれており、仕切りのあるお盆を使用することにより、ご飯やおかずは遠赤外線加熱で温かく保たれ、サラダや果物は冷たい状態のまま保たれるので、患者様のお手元まで温かい物は温かく、冷たい物は冷たいままお届けすることができるようになりました。また食器の種類もガラス風の物や子供用食器など大幅に増やすこともできました。

ただこれらの設備のため配膳車1台当たりの大きさと重量がアップしたため自動搬送機が使えなくなり、職員がエレベーターを使い、手で押しながら病棟まで食事を届けなければならなくなりました。しかしこの配膳車は非常に優れ物で、補助動輪が備えられており、軽力で動かすことができ、前後斜め以外に左右にも動かせます(縦列駐車も楽々です)。衝突防止機能もあり障害物に近づくとも超音波センサーにより自動的に回避する機能がついています。その他にも安全面を強化する様々な機能がついていますが、紙面の都合上省略させていただきます。

今後はこの適温配膳車の機能を最大限に生かし、栄養管理課一同、入院患者の皆様にご満足頂けるお食事を提供できるまで頑張っていきたいと考えています。



受診される皆様への権利

- 1) 人間として尊重され医療を受ける権利があります。
- 2) 良質な医療を平等に受ける権利があります。
- 3) 診療の内容について十分な説明を受ける権利があります。
- 4) 治療方針について自らの意見を表明し決定する権利があります。
- 5) 自分が受けている診療について知る権利があります。
- 6) 診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。
- 7) 診療についての他の医師の意見を求める権利があります。

市立豊中病院職員倫理規程

- 1) 受診される皆様を人間として尊厳を重んずる。
- 2) 受診される皆様に良質な医療を平等に提供する。
- 3) 診療の内容について納得が得られるよう十分な説明を行う。
- 4) 治療方針における受診される皆様の状態を把握する。
- 5) 受診される皆様から診療に関する情報提供の要請を受けたときは誠実に対応する。
- 6) 受診される皆様の個人情報及びプライバシーを守る。
- 7) 受診される皆様からセクハラやパワハラ等のための情報提供の要請を受けたときは積極的に情報を提供する。
- 8) 安全で質の高い医療の提供に努める。
- 9) 公務員としての自覚を持ち、法令を遵守する。

〒560-8565 豊中市楽原町4丁目1番1号 TEL (06)6843-0101(代表) FAX (06)6858-3531
(URL)http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/

編集・発行:市立豊中病院広報委員会(病院管理課) 発行日:平成18年(2006年)1月